

TEL06・6346・8181
FAX06・6346・8185

メールはo.shakaibu@mainichi.co.jp
読者の皆さんの取り上げてほしいテーマ
など、お寄せください。

毎日新聞(朝刊)

大阪

「福祉のプロへ成長を」

ケニアで障害児支援 医師が講演

枚方の施設

枚方市の障害者支援施設「わらしべ園」で7月、ケニアの障害児通所施設「シロアムの園」の支援員リーダー2人が1週間研修を受けた。シロアムの園では利用者のことを「アミチ(ラテン語で「友達」の意と呼ぶ。帯同で来日した同園の公文和子代表(57)はわらしべ園の職員たちを前にした講演で「アミチに何を与え、同時にアミチから何を受け取るか。両方にしっかり向き合える人が福祉従事者のプロとして成長できる」と語りかけた。

小児科医の公文さんは2002年からケニアに住み、15年に首都ナイロビ郊外にシロアムの園を開設。現在は60人ほどが通っている。両施設は数年前から互いに職員を実習生として受け入れ、技能の習得と意識の向上を図っている。

講演で公文さんは、障害児を「アミチと呼ぶ理由について、「『利用者』ではサービスの提供と利用という関係になる。患者でもないし、みんなで話し合っ



わらしべ園の職員たちを前に講演するシロアムの園代表の公文和子さん(右)と支援員リーダーのロバート・カランジャ・ワンジコさん(中央)、ジェイコブ・ムルタラス・レイヤグさん(左)＝枚方市で

て決めた」と説明した。ケニアは部族の風習などから障害者に対する偏見が強く、福祉施策も遅れているという。支援員リーダーの

ジェイコブ・ムルタラス・レイヤグさん(26)は「障害児をケアした経験がなく、働き始めた頃は不安だった。だが、子供たちの笑顔に引かれ、もっと学んで、もっと仕えたいと思った」と語った。

ロバート・カランジャ・ワンジコさん(23)の妹マーガレットさん(19)には知的障害があり、シロアムの園に通っている。ロバートさんは「園のアミチ皆が愛されていると感じられるように、一緒に時間を過ごすことがすごく大切」と思いを述べた。

公文さんは、子供たちの笑顔の裏には障害者に対する偏見や差別、親たち介護者の生活苦などさまざまな問題があると指摘。2人の仕事ぶりや意識の変化を説明しながら、「技術は必要だが、それだけではない。相手から何も受け取らなければ仕事は定型になり、入浴介助やトイレ

介助も決まった時間に決まったやり方で終わってしまう。何かを受け取れることができれば、定型でないやり方ができるプロになれると思う」とわらしべ園の職員たちを励ました。

社会福祉法人わらしべ会の辻和也理事長は「福祉の制度が整うほど、書類作りなどに忙殺され、何のためにこの仕事に就いたかを考える時間も余裕も持たなくなることがある。ケニアは制度面では遅れているが、シロアムの園では職員みんなが生きていきと働いている。その姿は我々の仕事のやりがいにもつながる」と話していた。

【新土居仁昌】

思い出を語り合うことで脳の活性化を図る交流イベント「思い出ノート倶楽部in東大阪」(地域包括支援センターみのりの里主催)が7月31日、東大阪市加納7のアメリアアマンション集会所であり、約40人が参加した。



語り合い脳の活性化を

東大阪で思い

わが町にも歴史あり

知られざる大阪

662

三好長慶は四国や畿内を中心に領国を広げ、版図は最大13カ国に及んだ。語に出てくる「隠居」を「とほわけ」が違ふ。將軍の相手やら面倒くさい

の信忠に家督を譲って居城としたのが安土城。飯盛城と安土城は、同じ「隠居城」なのだ。

飯盛城は大東市と四條畷市にまたがる飯盛山にあり、奈良県境に近い。標高314m、東西400m、南北700mの府内最大の山城だ。幸いにして、近くまで車で行け



楠公寺かり、分かれくると尾根にると電波塔。下には大阪平の景色にふさわし千畳敷が